

大津市立北大路中学校 「自主力行」「凡事徹底」



校長室だより

平成24年(2012年)2月1日

校長 山中 一仁

『楽しさは周囲の人との共有物』

早いもので、もう二月です。厳しい寒さの中にも「節分」・「立春」となると、どこからか春の兆しが現れ始めます。3年生の皆さんにとっては、受験真ただ中で、細かな季節の移り変わりや時間の経過も忘れてしまいそうな生活が続いていることでしょう。今年が閏年で、2月が例年より1日多い年ですが、「1月は行く」、「2月は逃げる」、「3月は去る」の言葉通り、瞬く間に過ぎ去っていきそうです。



先月半ばから、本校でもインフルエンザが猛威を振るっています。手洗い・うがい・体調管理をしっかりしましょう。

さて、先日、入試を控えた3年生の皆さんに対して面接指導を行いました。質問の一つとして、「あなたが、中学校3年間の中で『楽しかったなあ』と思ったことはどんなことですか。」と尋ねてみました。すると、ある人は「修学旅行も、文化祭等さまざまな行事も、とても楽しかったのですが、本当のところは、毎日、クラスの友達といろいろな話題で意見を交わし、怒ったり笑ったりしながら話をしたことが、今となっては最もかけがえのない楽しい思い出になりそうです。」と応えてくれました。また、ある人は「文化祭の合唱コンクールや体育祭の団体競技でさまざまな困難を、みんなが力を合わせることによって克服し、みんなで頑張りました。その結果、単に成績結果や作品のよしあしではなくて、みんなと一緒に喜び、みんなと一緒に悔しがり涙を流したことが、何にも代えがたい楽しさであり感動でした。高校に行けば、近い将来のために、専門の技能を磨いたり、たくさんの資格を取り、これまで以上に勉強に力を入れたいと思います。中学時代に経験したこの感動を、高校でもまた経験してみたいと思います。そのために、勉強以外にもやるべきことを、新たな仲間の中で自分ができることを、精一杯やってみたいと思います。」と答えてくれました。すばらしい学級集団、学年集団であったことを改めて感じさせてもらうとともに、皆さんの成長ぶりをとても嬉しく誇らしく思いました。

答えてくれた皆さん一人ひとりの心の中に、「楽しさは、自らの周囲の人と共有して感じるものだ。」ということが、意識として築かれていることがとてもすばらしいと感じました。

残り少なくなってきましたが、全校の皆さんがクラスの締めくくりをよりよいものにするために努力し、次年度の新たな出会いに備えてもらいたいと思います。